

成果物の有効性に関する評価¹

(1) 作成資料に関する評価

当該研究において作成している資料に関して、フォーカス・グループ・インタビューを実施することにより評価する。

1) 評価対象

名称：放射線便利帳

版：2014年12月発行（第3版）

2) インタビューの実施

「放射線便利帳」に関する評価については、2回のフォーカス・グループ・インタビューによって行った。インタビューの概要は以下の通りである。

〔インタビュー1〕

日時：2015年2月28日 13:00～14:00

場所：保育所内（福島県内）

対象者：保育所職員2名（男性1名、女性1名）

実施者：木村・竹中（パブリック・アウトリーチ）

備考：使用したインタビューガイドについては、図1を参照

〔インタビュー2〕

日時：2015年2月23日 13:10～13:30

場所：柏市施設

対象者：柏市住民5名（女性5名）

実施者：木村・竹中・丸山（パブリック・アウトリーチ）

備考：「フォトボイス手法を用いたリスクコミュニケーション検証に関するワークショップ」内で実施²

¹本資料の作成は特定非営利活動法人 パブリックアウトリーチによる。

²「フォトボイス手法を用いたリスクコミュニケーション検証に関するワークショップ」に関しては、PhotoVoice手法の有効性に関する評価を参照のこと。

「放射線便利帳」の使いやすさに関するインタビュー

日時：2015年2月28日 13:00～14:00

場所：[REDACTED]

インタビュイー：3～4名

インタビュアー：木村・竹中（パブリック・アウトリーチ）

インタビューの形式：フォーカス・グループ・インタビュー
（複数名を同時にインタビューします）

〔目的〕

国立保健医療科学院の作っている「放射線便利帳」をよりよいものにしていくことを目的として、実際に利用している、または、利用する可能性のある方々に、わかりやすさ、使いやすさ、などの観点からのご意見をお聞きします。

〔事前のお願い〕

もし「放射線便利帳」を初めて目にする方がいらっしゃいましたら、事前に目を通してくださるよう、お願いいたします。

〔インタビューの内容〕

1. 「放射線便利帳」を、今までどのような場面で利用しましたか、もしくは、利用してみたいと思いましたが。
2. 実際に「放射線便利帳」を利用してみたときの感想や意見を教えてください。
 - 2 - 1. 「放射線便利帳」のわかりやすかったところ、逆に、わかりにくいところを教えてください。また、その理由を教えてください。
 - 2 - 2. 「放射線便利帳」の使いやすかったこと、逆に、使いにくかったところを教えてください。また、その理由を教えてください。
 - 2 - 3. どのような点が改善されれば、より利用しやすくなりますか。
3. 「放射線便利帳」について、ご意見があればお願いします。なんでも構いません。

〔その他〕

このインタビューは、国立保健医療科学院の事業の一環で実施しています。
記録を整理するために、録音いたします。個人が特定されるようなことはいたしません。

インタビューへのご協力、ありがとうございました。

図1 インタビューガイド

3) インタビュー結果の整理と評価

放射線便利帳の利用機会について

「放射線便利帳」について、少なくともインタビューを実施した範囲において、認知されていなかった。福島県内においては、現在では放射線に関する資料の利用機会が減っている。震災直後から夏頃までにこのような資料があればよかった、との声が聞かれる。

また、資料の利用範囲を広げる（保護者への配布を含める）ことも視野に入れるのはどうかという提案がなされた。（表1）

内容について

全体としては、イラストが豊富であり、見やすく、読んでみようという気持ちになるという評価を得た。また、目次が裏面に配置されており、必要になったときの辞書としても使える工夫がなされているという意見もあった。一方で、専門的な用語について、分かりやすく解説しようと工夫されていることに一定の評価をしつつも、さらなる工夫が必要との意見も聞かれた。（表2）

個別のコンテンツに関して、食品や外遊びに関する情報が載っていることについては、良い評価がなされた³。

また、放射線便利帳に追加して掲載して欲しい内容としては、建物の中の放射線量、将来どうなるのか（例えば、10年後の健康影響はどうなるのか）がわかるようなコンテンツの要望があった。これらのコンテンツは、震災直後に必要というコンテンツではなく、現在の福島において必要な情報ということであった。掲載するコンテンツについても、状況変化に合わせたものが必要になることがわかる。（表3）

参考までであるが、インタビューで出てきた、現時点での保育所の気をつけている点、悩み等を整理しておく。（表4）震災後に出来なくなってしまった外遊びについて、今後、活動の復活や保護者との対応に、どのように取り組んでいけばよいかを主な論点であった。

³ 放射線便利帳の使用想定範囲外であるが、柏市住民からは福島と他県との評価を見ることができたことについて高評価であった。（柏市の説明資料では、福島との対比のような情報が不足していた。）ただし、放射能が拡散した県である千葉県の情報がないことに対して、不満が残っていた。

表1 放射線便利帳の利用機会に関する意見

- 「放射線便利帳」は、先週いただいたばかりで、利用したことはない。今までも保育所には配布されていなかった。
- 現在は、保護者の方も放射線についてあまり言ってこなくなっている。現時点では「放射線便利帳」を利用する機会はそれほど多くない。
 - 保護者の方があまり言わなくなった理由：日常生活の中で気にしてられない。事故から年月も経っている。気にしている人は気にしていると思うが、事故当初のテレビの情報や、当園で行った研修などによって、放射線影響の内容を把握されている方が多くなっている。
- 当園が悩みを抱えていた時期（震災直後～夏頃）に「放射線便利帳」をいただけたら、参考になったかもしれない。手探りで対応し、様々な講演なども聞きに行ったが、疑問が解決しないままのときもあった。そういった時期から活用できれば良かった。
 - 当時困っていた事柄：プールをどうするか。外遊びの時間をどうするか。砂遊びをどうするか。食べ物（きのこ、牛乳など）は大丈夫なのか。
- 「保健福祉職員向け」とあるが、保育所に置くだけでなく、保護者の方に直接渡すことができれば、より安心していただけると思う。保育所としても保護者の方に説明はするが、気になる方はご自身で目を通すのではないか。
 - ただし、「保健福祉職員向け」と書かれていると、難しいかもしれないと思って、読まない方もいるかもしれない。「誰でも簡単」などと書かれていれば良い。

表2 放射線便利帳に関する全般的な意見

〔良い点〕

- イラストが載っているのが、第一印象は良い。文字ばかりが並んでいるよりは分かりやすく感じる。分かりやすくするために工夫されている。
- 字がたくさん書かれているわけではないので、見やすく、手に取りやすく（難しそうと思って敬遠しにくく）分かりやすいと思う。
- 今までに見てきたい資料の中では、一番見てみたいと思えた。（イラスト付きの資料はあまりなかった）
- カラーでイラストも多く、女性や子供でも見やすいと思った。
- 目次を見て、どこに何が書いてあるかがすぐに分かるのは良い（保護者の方から質問が来たときには、すぐに答えられることが望ましいので）。放射線に関して、辞書のように活用することはできるだろう。

〔悪い点〕

- 放射線のことを何も分からない人が見たら、単語が難しく感じるのではないか（Sv など）、
どういう数値なら安全で、どういう数値だと危険なのかが分かりやすく書かれていると良い（伝えようとする努力は感じるが）。

表3 放射線便利帳のコンテンツに関する意見

〔現在のコンテンツについての意見〕

- 食べ物や外遊びに関する情報が載っているのは良い。
- 食品に対し検査がされていて、数値情報も多く載っていて、安全だということが分かった。
- 陰膳という普段私たちが食べるものと同じ形で調査をしていて、大きな数値が出ていないのは良かった。
- 陰膳調査に千葉県が載っていないのが残念。
- （13 ページを見て）福島県内外でがんの発症率に大きな違いがないことが分かった。
- 25 ページに散歩コースの線量率マップがあるが、柏市でも、安全に遊べるように、事故直後に線量率のマップがあれば良かった。（便利帳にはマップが載っていて良かった）
- 事故直後は、放射性物質は人工物だけだと思っていたが、5 ページを読んで、自然にも放射性物質があるということを知り、少し安心した。

〔コンテンツに関する要望〕

- 建物の中の放射線量がどうなっているのかが知りたい。建物の大きさ（施設なのか、自宅なのか、保育所なのか）によって、線量も異なってくると思う。
- 今後、「放射線便利帳」を活用するとすれば、「将来どうなるか」という情報がほしい。具体的に、「10 年経ったらどうなるのか」などが分かれば良いのだが、「実際に経って見ないと分からない」とよく言われているので、なかなか難しいのかもしれない。
 - 特に、子供たちがどうなるかという情報が知りたい。それがあれば、保護者の方と話す際の安心材料のひとつになる。
 - 将来どうなるかが分からないということも不安を増長させているのではないか。
- 「この遊びをしても、この程度の数値です」と書いてあれば、安心はするが、起こってしまったことをなくすことはできないので、この種の問題を解決するのは時間しかないと思う。10 年程度経たなければ解決しないのではないか。
- 自分の身近な問題に答えてもらえる団体や市の対策室についての情報（問い合わせ先）があれば良かった。（情報が全般的すぎる）

表4 (参考) 保育所の気をつけている点、悩み等

- 側溝や隅など、放射性物質がたまりやすい場所はなるべく触らない(触らせない)ように注意している。
- 自然遊びをさせたいという気持ちはあるが、震災後にできなくなった遊びは多い。プールやさつまいも収穫はやらせてあげたいけれども、やらせていいのか、という気持ちもある。学校や他の園など、周りの目もあるので、復活させるタイミングが難しい。
 - どんぐりやまつぼっくりは線量が高いという話を聞いている。当園では、他からもらったどんぐり、まつぼっくりを使って遊ぶようにしている。子供たちが自分で拾うという経験はできなくなっている。
 - 砂遊びはできなくなった。
 - プールは使わなくなった。また、事故当初は水着姿で外を出歩くことを心配する声もあった。現在は、年中・年長クラスの子供は近所のスイミングスクールに通わせるという取り組みをしている例もある。年少クラスの子供はビニールプールで水遊びをする程度。
 - さつまいもの苗を植えて、秋に収穫していたのだが、震災後はしなくなった。代わりに、室内で「さつまいも探し(買ってきたさつまいもを室内に隠して、子供たちに探させる)」をしている。
- 入園式のときに、園のしおりを通して、外遊び、プールなどの説明をしている。
- 震災当初は、市から配給された測定器を用いてモニタリングをし、結果を毎日掲示していたが、しばらくして測定をやめていた。その後、外遊びの時間を制限してほしい、とおっしゃる保護者の方がいて、測定値の掲示を復活させた。その後は測定値の掲示を継続している。
 - 家庭教育学級の取り組みの中で、講演会を開催したことが数回ある。
 - 外遊びについては、個別に対応して、納得していただき、現在は全ての保護者の方から外遊びの同意書をいただいている。
 - 保護者から、「この遊びを復活させないでほしい」という声はない。

4) まとめ

当該研究における成果物の有効性に関する評価は、「放射線便利帳」に関して、福島県内の保育所職員へのフォーカス・グループ・インタビュー、および、震災後に放射線リスクを有していた地域である千葉県柏市住民へのフォーカス・グループ・インタビューにて行った。その結果、全体としては、イラストが豊富であり、見やすく、読んでみようという気持ちになるという評価を得た。また、目次が裏面に配置されており、必要になったときの辞書としても使える工夫がなされているという意見もあった。一方で、専門的な用語について、分かりやすく解説しようと工夫されていることに一定の評価をしつつも、さらなる工夫が必要との意見も聞かれた。

放射線便利帳に追加して掲載して欲しい内容としては、建物の中の放射線量、将来どうなるのか（例えば、10年後の健康影響はどうなるのか）がわかるようなコンテンツの要望があった。掲載するコンテンツについても、福島の状態変化に合わせたものが必要になる。